

令和元年度
鹿児島高専 COC+事業報告

令和2年3月27日

鹿児島工業高等専門学校

目 次

1. 国（文部科学省）と鹿児島県の COC+事業及び鹿児島高専における COC+事業	1
1.1 文部科学省の COC+事業	1
1.2 鹿児島県の COC+事業	1
1.3 鹿児島高専の COC+事業	2
1.4 鹿児島高専における COC+事業目標値	3
2. 鹿児島高専における「地（知）の拠点大学による 地方創生推進事業（COC+）」の事業	4
2.1 「COC+高専」地方創生事業推進会議の開催	4
2.2 学生に対する地元自治体や地元企業による 特別講義・講演、企業見学の実施	5
2.3 学生及び保護者に対する企業セミナーの実施	6
2.4 インターンシップの推進	7
2.5 地域企業との学生を交えた共同研究の実施	7
3. まとめと今後の課題	7

参考資料

1. 国（文部科学省）と鹿児島県のCOC+事業及び鹿児島高専におけるCOC+事業

1. 1 文部科学省のCOC+事業

地（知）の拠点大学の地方創生推進事業（COC+：Center of Community Plus）は、文部科学省が、平成27年度から、大学等が地方自治体や企業、民間団体等と産学官で、協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を実行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として実施するものである。我が国においては、「将来の人口減少が地域経済の縮小により加速する」ことが危惧されており、地方と東京との経済格差拡大が、東京の一極集中と若者の地方からの流出を招くとされている。そこで、文部科学省では、地方の大学が地域の自治体や中小企業等と協働し、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定し、実行することを求めている。

具体的には、図1に示すように、大学等が地域の各種機関と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、地域が求める人材を育成するための教育改革を実行することと、COC+推進コーディネーターを配置し、事業協働地域の連携強化や取組みの進捗を管理することを求めている。事業協働機関が設定した目標達成に向け、大学力（教育・研究・社会貢献）を結集させ、事業協働地域における雇用創出と事業協働地域への就職率向上によって、地域活性化を目指す。

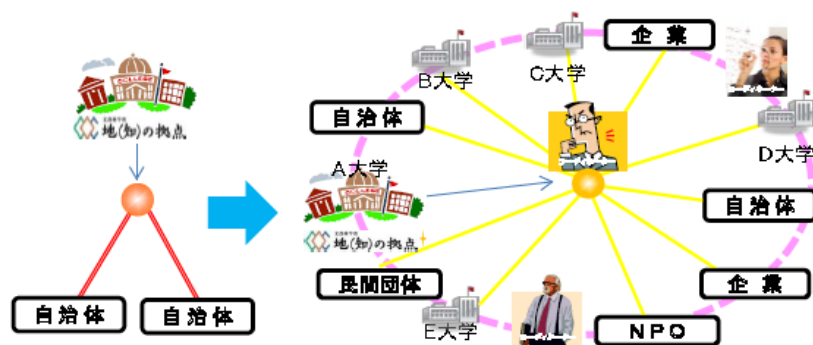


図1 文部科学省のCOC+事業のイメージ

1. 2 鹿児島県のCOC+事業

鹿児島県におけるCOC+事業は、平成27年度～令和1年度の5年間にわたる協働事業であり、図2に示すように、鹿児島大学を拠点校として、5大学（鹿児島大学、鹿児島体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学）、2短大（鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学）と鹿児島工業高等専門学校（鹿児島高専）の8高等教育機関と鹿児島県、団体・企業等で構成される組織で実施している。地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進、参加大学等の「知」と地域の「地」の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大、地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化を目的として、図3に示すような具体的な地元就職率増を目標として、以下の事業を協働して推進している。

- ①地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
- ②地域企業の魅力を学生に伝える体験型、座学による講座、地元就職支援体制構築
- ③参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ④地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進
- ⑤鹿児島県内の大学等による地域ニーズの的確な把握と教育プログラム構築
- ⑥地域志向マインドの養成、インターンシップの実施
- ⑦地域企業との共同研究や委託研究の推進



図2 鹿児島県のCOC+事業協働組織



図3 鹿児島県におけるCOC+事業の数値目標

1.3 鹿児島高専のCOC+事業

上述の文部科学省と鹿児島県におけるCOC+事業を踏まえ、鹿児島高専における独自のCOC+事業に取り組んでいる。図4に示すように、知的・人的資源を有する鹿児島高専と包括連携協定を締結した公的資源を有する霧島市および日置市、技術的資源を有する鹿児島高専テクノクラブ会員企業代表、両市の商工会議所および商工会の代表、鹿児島経済研究所、鹿児島高専地域共同テクノセンターの産学官の13名で構成される「COC+高専」地方創生推進会議を設立した。それぞれが有する資源を活かして「地元就職率の向上」、「地域企業の活性化」、「雇用創出」、「新規産業育成」、「人材育成」、「共同研究の推進」に向け、地域共同テクノセンターが中心となって事業を企画、立案し、産学官が協働して、実施していくことになっている。



図4 鹿児島高専におけるCOC+事業の組織イメージ

これらを推進するために、「COC+高専」地方創生推進会議において、図5に示すような取り組みイメージで連携し、鹿児島高専を中心に、地元就職率向上を目指し、地方創生推進事業を展開している。具体的な推進事業は図9に示す5項目であり、その取り組み内容を以下に示す。

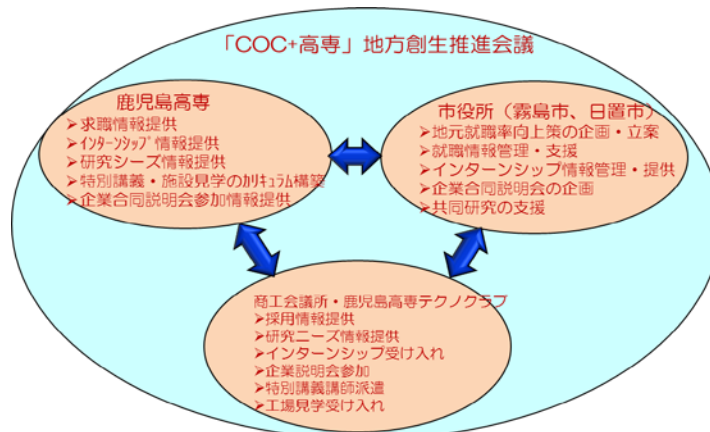


図5 鹿児島高専におけるCOC+事業の連携イメージ

＜推進事業Ⅰ＞ 地域企業インターンシップの推進

鹿児島高専は、地域企業や市役所の協力を得ながら学生の受け入れ企業の開拓を行う。学生は、就業体験を通して、地域企業の魅力や良さを知り、新規学卒者の地元就職率アップに繋げる。



図6 地域企業インターンシップ

＜推進事業Ⅱ＞ 地域企業合同説明会の推進

鹿児島高専は就職指導、市役所は、説明会の企画と高専への橋渡し役を行う。学生の就職希望と企業の求人のマッチングを行い、学卒者の地元就職率の向上を目指す。市役所、商工会・企業、高専が一体となって就業マッチングの機会を設け、地元雇用の推進を図る。



図7 地域企業合同説明会

＜推進事業Ⅲ＞ 地域教育特別講座の推進

商工会議所・企業、市役所から鹿児島高専へ有識者、技術者、職員を派遣して、学生に地域の産業・環境・文化など地域資源に関する分野の講演を通じて、地域社会を理解してもらう“地域教育特別講義（集合教育、ゼミ、施設見学）”を実施する。将来の地域活性化を担う若年者の人材育成を行う。



図8 地域教育特別講座

＜推進事業Ⅳ＞ 奨学金による地元就職の推進

地方創生交付金などを活用し、市役所および企業が連携して地元での新卒者の雇用と定着を図るため地元就職者奨励金支給制度を設立し、新卒者の地元就職を促進する。

＜推進事業Ⅴ＞ 地域企業ニーズと高専のシーズによる共同研究の推進

地域の特徴を活かした新産業創出を図るため、高専のシーズと地域企業のニーズをマッチングさせた共同研究を推進する。地域企業との共同研究を推進するための助成金制度を設ける。

推進事業Ⅰ	・地域企業インターンシップの推進
推進事業Ⅱ	・地域企業合同説明会の推進
推進事業Ⅲ	・地域教育特別講座の推進
推進事業Ⅳ	・奨学金による地域企業就職の推進
推進事業Ⅴ	・地域企業ニーズと高専シーズによる共同研究の推進

図9 COC+高専地方創生推進会議におけるCOC+推進事業

1. 4 鹿児島高専におけるCOC+事業目標値

これらの事業の成果の指標として、鹿児島高専における5年間の地元就職率とインターンシップ参加者の目標値を表1に示す。COC+事業の地元就職率とインターンシップの目標値は、平成26年度をベースに事業実施5年間の目標値を計画することとなっている。平成26年度の地元就職率16.4%は、地元就職者数の各科平均が約5名程度の実績から、毎年3~5名程度増やし、5年後には、例年の各科平均就職希望者数約30名の中から各科約7名(20%~30%)程度の地元就職を目標に、年度ごとに概ね2%~4%増として比例的に増やす努力目標として想定している。ちなみに、平成24年と平成25年の地元就職率は、それぞれ14.3%と13.8%と平成26年度より約2.1~2.6%と低い水準であったが、これを基準とすることはできなかった。また、就職学生数全体数値は平成26年度の135人を基準として5年間の目標値を算出しているが、これは年度ごとに変化するものであり、地元就職率に影響を与えるファクターである。さらに、インターンシップ参加者数の目標値は、平成26年度の29人をベースに、年度毎に3名~5名の増を目指し、最終年度は、50人を目標とし、4年生の在籍者数(190名~200名程度)全てが、インターンシップを受講すると想定した1/4即ち25%程度を県内企業のインターンシップを受講させる目標値としている。

表1 鹿児島高専における地元就職率とインターンシップ参加者目標値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
COC+参加大学 地元就職率(A/B)	16.3%	18.5%	20.7%	23.0%	25.9%	28.1%
	地元就職学生数 A	22	25	28	31	35
	就職学生数全体 B	135	135	135	135	135
事業協働機関への インターンシップ参加者数	29人	34人	39人	44人	47人	50人

2. 鹿児島高専における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の事業

鹿児島高専では、霧島市、日置市、両市の商工会議所、商工会、鹿児島高専テクノクラブ（KTC）¹などと連携して地方創生推進事業を展開している。

2. 1 「COC+高専」地方創生推進会議の開催

本会議は、今年度は期間中3回の推進会議と年度末の評価会議を通じて、新卒者の地域企業への就職率と定着率の向上を図るための方策と支援を検討し、実施してきた。

第1回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】令和元年5月23日（木） 13時27分～14時45分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

- 【議事】1) 「COC+高専」令和元年度事業計画（案）について
2) 次年度以降の事業継承に向けた取組方針について



写真1 「COC+高専」地方創生推進会議

第2回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】令和元年12月11日（金） 14時55分～16時20分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

- 【議事】1) 令和2年度「COC+高専」事業の進め方について
2) 進路決定に関するアンケート項目（案）について



写真2 「COC+高専」地方創生推進会議

第3回「COC+高専」地方創生推進会議と事業評価会議

【日時】令和2年3月27日（金） 10時00分～12時00分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

「COC+高専」地方創生推進会議

- 【議事】1) 令和元年度「COC+高専」事業自己評価について
2) 地方創生推進に係る今後の取組方針について

事業評価会議

- 【議事】1) 令和元年度「COC+高専」事業評価について

¹ 平成10年3月、南九州地域の有志企業が、地域との連携強化を学校の理念の一つに掲げている鹿児島高専と相図って設立した産学官連携組織である。

2. 2 学生に対する地元自治体や地域企業による特別講義・講演、企業見学の実施

地域企業への理解を深めるための特別講義・講演、企業見学と体験学習を通じ、地元を志向する学生を育成し、地元就職率及び定着率の向上に繋げることを目的として、平成 27 年度から、地域企業による特別講義と企業見学を行っている。また、専門的な見地から各企業の業務内容と技術を習得・体験する目的でも実施している。特別講義の実施状況を表 2 に示す。本年度は、前学期 5 回、後学期 8 回実施した。特別講義風景を写真 3～5 に示す。

表 2 地元自治体や地域企業による特別講義と OB・OG 事例発表

	実施日	特別講義対象学科	特別講義実施企業等
前 学 期	6 月 19 日	情報工学科	(株)ソフト流通センター
	7 月 8 日	電子制御工学科	(株)ユピテル鹿児島
	7 月 9 日	都市環境デザイン工学科	鎌田建設(株)
	7 月 17 日	機械工学科	(株)トヨタ車体研究所
	8 月 5 日	電気電子工学科・電子制御工学科	飛鳥電気(株)
後 学 期	11 月 12 日	情報工学科	ソフトマックス(株)
	11 月 20 日	電子制御工学科、情報工学科	日置市役所
	12 月 4 日	機械工学科	国分電機(株)
	12 月 4 日	電気電子工学科	(株)明興テクノス
	12 月 4 日	機械工学科、電気電子工学科	霧島市役所、OB(霧島市役所)
	12 月 4 日	都市環境デザイン工学科	霧島市役所、OB(霧島市役所)
	12 月 11 日	都市環境デザイン工学科	大福コンサルタント(株)
	12 月 20 日	電子制御工学科	(株)A・R・P 鹿児島事業所



写真 3 特別講義（飛鳥電気(株)）



写真 4 特別講義（(株)明興テクノス）



写真 5 特別講義（大福コンサルタント(株)）

また、地域企業の協力により企業見学を実施した。表 3 に本年度の実施状況を示す。平成 28 年度までは、前学期と後学期に分けて、各科ごとに、10 社実施してきたが、令和元年度は平成 30 年度と同様に、学内の行事予定や COC+事業費削減の関係から後学期の 5 社のみで実施した。工場見学風景を写真 6～8 に示す。

表 3 地域企業による企業見学

実施日	対象学科	見学企業
11 月 6 日	機械工学科	東フロコーポレーション(株)
11 月 6 日	電気電子工学科	昭光エレクトロニクス(株)
11 月 6 日	情報工学科	(株)ユピテル鹿児島
11 月 15 日	都市環境デザイン工学科	ヤマグチ(株)
12 月 5 日	電子制御工学科	(株)九州タブチ



写真6 企業見学（東フロンティア（株））



写真7 企業見学（（株）ユピテル鹿児島）



写真8 企業見学（ヤマグチ（株））

2. 3 学生及び保護者に対する企業セミナーの実施

（1）保護者向け校内合同企業セミナー 令和元年5月25日 於：鹿児島高専

学生は、保護者に相談して就職の方向性を出すことから、保護者にも県内企業を知ってもらうことを目的として、平成28年度から全学年の保護者及び学生を対象に実施している。今年度は、鹿児島高専テクノクラブ会員企業31社、保護者126名、学生16名が参加した。企業の事業説明を親子で聞くことで地域企業を理解し、企業は、親に業務を理解してもらうことで、将来の新卒獲得に向けた活動のきっかけとなる。アンケート結果では、“会社の概要を直接聞けるところが良かった”、“地元企業の話聞いてとてもいい機会でした”との感想などが寄せられた。写真9、10は説明会の風景である。



写真9 セミナー風景1



写真10 セミナー風景2

（2）KTC・霧島市合同企業研究会 令和2年1月22日 於：鹿児島高専

例年開催していた霧島市、本校主催の企業研究会を合同で開催した。今年度は鹿児島高専テクノクラブ会員企業48社、霧島市の誘致企業8社、2つの官公庁がブースを出展した。学生約220名（本校約180名）が参加した。写真11～写真13は、その実施風景である。



写真11 説明会風景1



写真12 説明会風景2

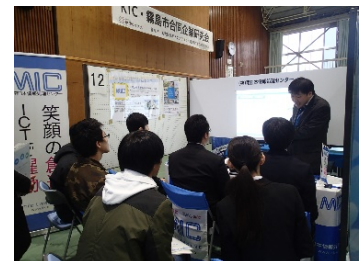


写真13 説明会風景3

2. 4 インターンシップの推進

COC+事業による人材育成の一環として、地域企業との協働で、インターンシップを活用した人材育成を行っている。県内のインターンシップ受入企業開拓のため、令和元年5月27日県内企業138社へ依頼文書を発送し、75社から受入可能の回答を得た。本校産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブの会員企業50社へ受入依頼を行ったところ、37社から受入可の回答を得た。本年度のインターンシップ参加学生総数は189名、うち県内企業参加者は27名であった。

6月より4年生に対しインターンシップ受講指導を開始した。県内企業へのインターンシップ受講を奨励し、インターンシップでの就業体験を通して地域企業へ就職を希望する流れを引き続き推進していく。表4にインターンシップ実績を示す。

表4 COC+開始年度からのインターンシップ参加者の推移

H26	H27		H28		H29		H30		R1	
	参加総計	県内	参加総計	県内	参加総計	県内	参加総計	県内	参加総計	県内
29	105	40	155	42	156	52	192	40	189	27

2. 5 地域企業との学生を交えた共同研究の実施

COC+事業の一環として、本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ（KTC）とともに共同研究を行っている。特に人材育成、技術教育、工学教育の実践の場として、卒業研究や専攻科の特別研究を絡めて、学生を交えた共同研究の取り組みも行っている。研究の過程においては、本校に共同研究先の企業技術者が来校し、教員と連携した指導の実施や、企業側へ学生と教員が出向き、教員・学生と企業技術者が、実験や研究の進捗、研究の問題点についてディスカッションするなどしている。学生にとっては研究の進め方などを現場技術者の声を聞きながら実践的に学ぶことのできる、大変貴重な機会となっている。

令和元年度も地域企業との共同研究を引き続き行っており、それぞれのテーマにおいて、研究成果をあげるべく取り組むとともに、参加学生が国内での学会や国際会議の場を通じて、研究成果を発表するなど高い教育効果も生まれている。

3 まとめと今後の課題

平成27年11月にスタートを切ったCOC+事業では、地元定着促進プログラムのコンセプトとして、

- ・地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
- ・参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ・地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進

を挙げている。

鹿児島高専においては、令和元年度は「COC+高専」地方創生推進会議を年3回開催し、事業の進め方、COC+事業終了後の事業の在り方を議論し、主に下記項目について、取り組んでいる。

- ①地域企業インターンシップの推進
- ②地域企業合同説明会の推進
- ③地域志向教育特別講義の推進
- ④奨学金制度による地域企業就職の推進
- ⑤高専シーズと地域企業ニーズによる共同研究の推進

これらの取り組みを通じ、実践的技術者として育成された学生が、地元の魅力を感じ、定着することで、地元活性化が促進されると考えている。

平成 27 年度から取り組んできた鹿児島高専における COC+事業の実績の推移を以下にまとめる。

①地域企業インターンシップの推進
COC+事業が開始された平成 27 年度以降の県内企業等へのインターンシップ参加者の推移を図 10 に示す。

平成 29 年度までは目標値を上回る参加者があったが、令和元年度の県内企業等での受講は目標値 50 名に対し 27 名と目標値を下回った。

令和元年度は本科 4 年生全体の 88% (延べ) がインターンシップに参加し、昨年度の 86%より参加率が微増した。

反面、県内企業へのインターンシップが大きく減少した要因として、学生の県外指向が挙げられるが、今年はその傾向が顕著に表れたのではないかと思われる。

また、県内インターンシップ参加者 27 名のうち 23 名 (85.2%) は KTC 会員企業にてインターンシップを行っており、今後も KTC 会員企業を主軸として、内容の充実した魅力あるインターンシップを実施していくことが重要であると思われる。

②地域企業合同説明会の推進

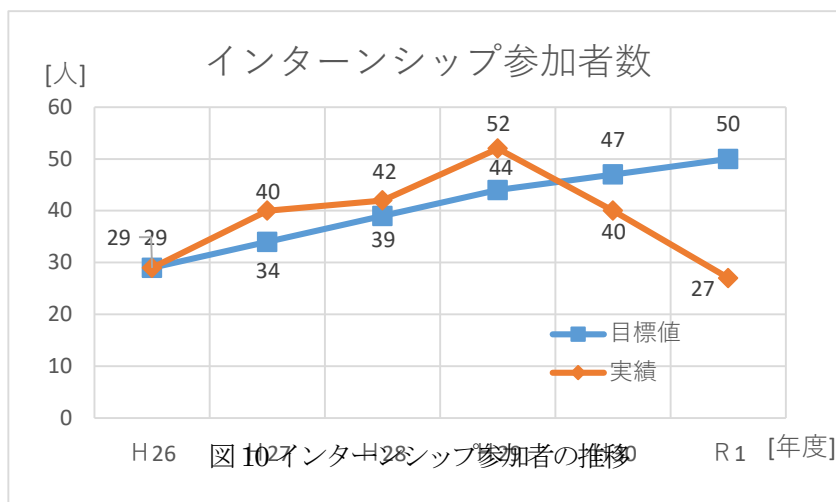
保護者向け校内合同企業セミナー (5 月 25 日)、KTC・霧島市合同企業研究会 (1 月 22 日) をいずれも本校第一体育館において開催した。

保護者向け校内合同企業セミナーは平成 28 年度から開始した取り組みで、保護者懇談会の日に併せて開催している。保護者向け校内合同企業セミナーには、KTC 会員企業 31 社がブースを開設し、保護者 126 名、学生 16 名が参加した。

今年度初の試みとなった KTC・霧島市合同企業研究会には、KTC 会員企業 48 社、霧島市の誘致企業 8 社、2 つの官公庁の計 58 のブースが参加した。本校学生約 180 名を含む 220 名の学生・保護者が参加した。

③地域志向教育特別講義の推進

平成 27 年度より地域企業による特別講義を、平成 28 年度からは企業に加えて霧島市と日置市にもご協力いただき、行政からの視点による地方創生に関する講演も行っている。地域志向教育を軸としたこれらの取り組みを継続するとともに、平成 30 年度からはキャリア教育としての各講義の位置づけを対象学年ごとに明確化し、1 年生から 4 年生の 4 学年 5 学科を対象に計 20 の企画を実施した。1 年生へは学習の始まった専門課程との関連を意識した形での企業技術者による特別講義、2 年生へは専門性を生かした地域での活動へ関心を高めてもらうために、霧島市及び日置市による地方創生に関する特別講義および、鹿児島で働く本校 OB・OG による講演、3 年生はエンジニアとして働くことへの意識を高めてもらうために、企業訪問によるものづくり現場の見学、4 年生には就職を念頭においた視点での企業講演を実施した。学生が地域企業の取り組みを知り、進路検討の参考となるとともに、自身の働き方やキャリア形成を考える機会となることを期待する。



④奨学金制度による地域企業就職の推進

地元就職推進のため、学生時代に貸与された奨学金の返還を免除（減額）するような地元就職者奨励金支給制度（仮称）の設立に向けて、平成 28 年度「COC+高専」地方創生推進会議の議題に挙げ、霧島市や日置市と検討を行った。その成果として、平成 29 年度、両市に奨学金返還免除（減額）制度が設立された。

⑤高専シーズと地域企業ニーズによる共同研究の推進

今年度の企業との共同研究は、10 件 そのうち、地域企業との共同研究は 4 件である。KTC 企業との共同研究を行う教職員に、KTC 寄附金から直接経費相当額（1 件当たり 20 万円を限度）を助成する制度を平成 29 年度に創設した。今年度の該当教職員への助成は 2 件であった。

これらの取り組みの成果指標となる本校の県内就職率の推移を図 11 に示す。

平成 27 年度に目標値を達成した後、平成 28 年度以降は減少傾向が続いている状況であったが、令和元年度は就職者 112 名のうち、県内就職者 26 名で、23.2%（目標値 28.1%）となった。目標には達しなかったが、昨年度の就職率から 4.8%の大幅アップとなり本事業を始めてから過去最高となった。

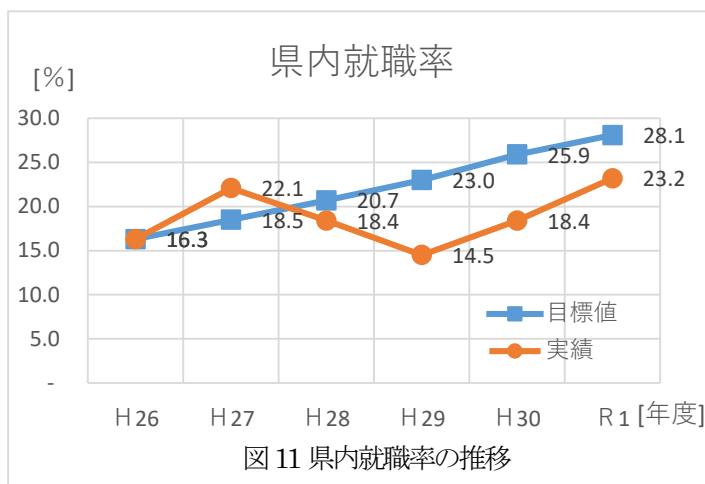
進路状況の変化としては、ここ数年の進学率の増加が大変顕著である。平

成 27 年度以前は 30%弱で推移していた進学率が、平成 28 年、29 年度は 30%台後半へと上昇し、平成 30 年度は 4 割超の 43%に達し、今年度も 41%と高い比率を保っている。今回県内の就職率が高かった要因としては、本事業を開始したのが平成 27 年度からであり、今回卒業する学生は 1 年次から COC+事業に触れていることが挙げられる。1 年次から各事業に触れることにより地域企業への関心が高まったのではないかと推測され、本事業の成果が表れているのではないかと考えられる。

5 月 25 日（土）に開催した保護者向け合同企業セミナーのアンケート結果では 47 名にアンケートに協力いただき、94%の方が参加してよかったとの回答を得ている。今後も継続して本取組を行う予定である。

1 月 22 日（水）に開催した KTC・霧島市合同企業研究会のアンケート結果（高専生のみ）では、28.6%の学生が県内での就職を希望しているとの結果が得られている。また、参加した企業へのアンケート結果では 81.5%の企業が本研究会への満足以上の評価をつけており、会社の PR ができた、早い段階で学生と接点を持てた、説明会回数を増やしてほしい等の意見をいただいた。本取り組みについても改善はまだまだあるが、継続して実施していくことが重要であると考えます。

補助事業としての COC+事業は今年度が最終年度であったが、産・学・官が協力し、地方創生に取り組む本事業は鹿児島高専にとっても大変重要であり、今後は KTC の活動を主軸にして本取り組みを継承する予定である。



講義・講演及び企業見学等の実績一覧

No	日 時	形 式	企業・講師等	対象学科	対象学生数
1	2019/6/19(水) 13:00～14:00	講義・講演	株式会社ソフト流通センター	情報工学科4年生	36人
2	2019/7/8(月) 14:40～15:40	講義・講演	株式会社ユピテル鹿児島	電子制御工学科4年生	41人
3	2019/7/9(火) 14:40～15:40	講義・講演	鎌田建設株式会社	都市環境デザイン工学科4年生	34人
4	2019/7/17(水) 14:40～15:40	講義・講演	株式会社トヨタ車体研究所	機械工学科4年生	39人
5	2019/8/5(月) 10:30～11:30	講義・講演	飛鳥電気株式会社	電気電子工学科4年生 電子制御工学科4年生	36人、43人
6	2019/11/6(水) 14:30～	企業見学	昭光エレクトロニクス株式会社	電気電子工学科3年生	40人
7	2019/11/6(水) 15:10～	企業見学	東フロコーポレーション株式会社	機械工学科3年生	45人
8	2019/11/6(水) 15:10～	企業見学	株式会社ユピテル鹿児島	情報工学科3年生	38人
9	2019/11/12(火) 14:40～15:40	講義・講演	ソフトマックス株式会社	情報工学科1年生	42人
10	2019/11/15(金) 15:30～	企業見学	ヤマグチ株式会社	都市環境デザイン工学科3年生	44人
11	2019/11/20(水) 14:40～15:40	講義・講演	日置市役所 総務企画部企画課 日置市役所 産業建設部農地整備課	電子制御工学科2年生 情報工学科2年生	40人、40人
12	2019/12/4(水) 14:40～15:40	講義・講演	国分電機株式会社	機械工学科1年生	43人
13	2019/12/4(水) 14:40～15:40	講義・講演	霧島市企画部企画政策課 建設部都市計画課	都市環境デザイン工学科2年生	39人
14	2019/12/4(水) 14:40～15:40	講義・講演	霧島市企画部企画政策課 建設部建設施設管理課	機械工学科2年生 電気電子工学科2年生	44人、43人
15	2019/12/4(水) 14:40～15:40	講義・講演	株式会社明興テクノス	電気電子工学科1年生	42人
16	2019/12/5(木) 15:00～	企業見学	株式会社九州タブチ	電子制御工学科3年生	43人
17	2019/12/11(水) 14:40～15:40	講義・講演	大福コンサルタント株式会社	都市環境デザイン工学科1年生	42人
18	2019/12/20(金) 12:40～13:40	講義・講演	株式会社ARP 鹿児島事業所	電子制御工学科1年生	43人

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年 6月 19日（水） 13:00 ～ 14:15	
実施場所	合併講義室（情報工学科棟 1階）	
実施形態	① 講義・講演	
対象学生	情報工学科 4年 36名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター コーディネーター 嘱託教授 大竹 孝明 情報工学科 准教授 武田 和大	所属：株式会社ソフト流通センター 役職：執行役員 技術本部 本部長 氏名：元吉 清隆 様（本校電気工学科卒） 役職：技術本部 エンベデッドソリューション部 氏名：岩下 幹治 様（本校情報工学科卒）
実施内容	地方創生特別講義として、株式会社ソフト流通センターの元吉様、岩下様をお招きして実施した。 講演では「世界でやれることを鹿児島でやる」と、鹿児島にあって全国の手企業と取引をしていることや、設計・開発・テスト・保守の各業務についての説明と各業務には適材適所で人員を配置していること、自社開発製品も展開していることなどを紹介していただいた。 また、地元鹿児島の企業で働く意義や優位性、県外で技術を身につけることの必要性、社会人になるにあたっての考え方、そして就職活動についての注意点についても触れていただいた。 今回、鹿児島でも全国規模の仕事ができ、活躍できる企業があることを学生は改めて認識し、本校OBとしての助言等も頂き、大変有意義な講演会になった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年7月8日（月） 14：40 ～ 16：10	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 電子制御工学科4年生教室	
実施形態	講義・講演	
対象学生	電子制御工学科 4年 41名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 准教授 吉満 真一 助教 瀬戸山 康之	所属：株式会社ユピテル鹿児島 役職：開発部 ゼネラルマネジャー 氏名：今重 善宏 様
実施内容	株式会社ユピテル鹿児島の開発部ゼネラルマネジャー、今重善宏様より、電子制御工学科4年生に対して特別講義を行っていただいた。 講義前半では、「ユピテル鹿児島の開発業務」と題して会社概要について紹介していただいた。学生は最新のドライブレコーダーやレーダー探知機などの製品を開発していることについて興味を持って話を聞いていた。 講義後半では、製品開発のプロセスについて説明していただいた。その後、課題解決のためのブレインストーミングの体験としてのグループワークを行った。学生は和気藹々と討論をし、その結果について発表を行った。 今回の講義は、実際の開発業務について知るよい機会となり、今後の就職活動に向けて大変有意義なものになったと感じている。	
		
		
		
		

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年 7 月 9 日（火） 14：40 ～ 16：10	
実施場所	都市環境デザイン工学科 4 年教室	
実施形態	① 講義・講演	
対象学生	都市環境デザイン工学科 4 年 34 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	都市環境デザイン工学科 教授 堤 隆 電子制御工学科 准教授 吉満 真一	所属：鎌田建設株式会社 役職：取締役副社長 氏名：鎌田 安典 氏
実施内容	本講義では、地元の建設・防災に携わる企業の社会的使命が主に扱われた。まず、ご自身の履歴について紹介され地元出身ということで学生が身近に感じることができた。また、スーパーゼネコンの勤務経験と地元の建設会社との業務を比較され、地元の建設業だからこそ全体を俯瞰できる業務に従事できることをご説明いただいた。さらに、地元の雇用を創出するという社会的責務を果たすために多角的な事業展開を行っていることについてもご説明いただいた。 本社を東京に置く企業に興味が行きがちな本校学生であるが、このクラスでは例年に比べ多くの学生が地元企業のインターンシッププログラムに参加した。この講義が地元の建設・防災に関心を持つきっかけになったものと考えられる。    	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年 7月 17日（水） 14：40 ～ 15：40	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 機械工学科4年教室	
実施形態	① 講義・講演	
対象学生	機械工学科 4年 39名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 准教授 椎 保幸 電子制御工学科 准教授 吉満 真一	所属：株式会社トヨタ車体研究所 経営管理部 総務人事室 氏名： 永重 一博 氏
実施内容	機械工学科4年生に向けて、㈱トヨタ車体研究所の永重様より、COC+地方創生特別講義を行って頂いた。 まず、トヨタ車体研究所の概要についてご説明頂き、同社と鹿児島高専の繋がりの話を含め、自動車産業の最近の動向についても教えて頂いた。 次に、トヨタの生産方式について、その中核である「ジャストインタイム」と「自動化」の話題に移り、話を聞くよりまずは実践ということで、グループワークを行った。1組2、3名でグループ分けをし、各組一つずつレゴブロックのミニカーを用いて実習を行った。実習のテーマは組立時間の短縮で、いかにして組立時間を短縮するかが実感できる内容であった。その後、再びスライドの説明に戻り、あらためてトヨタ生産方式をご説明頂いたが、単に話を聞くだけよりも格段に学生の理解は深まっていたように見受けられた。  	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年 8 月 5 日（月） 10：30 ～ 11：30	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 大講義室 1-4	
実施形態	① 講義・講演	
対象学生	電気電子工学科 4 年 36 名 電子制御工学科 4 年 43 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター長 電子制御工学科 教授 宮田 千加良 電気電子工学科 講師 前菌 正宜 電子制御工学科 助教 瀬戸山 康之	所属：飛鳥電気株式会社 役職：代表取締役 氏名： 鳥越 孝一 氏
実施内容	飛鳥電気株式会社の鳥越様にお越しいただき、電気電子工学科 4 年と電子制御工学科 4 年の 2 クラス合同で特別講演を行っていただいた。 講演では、地方創生と関連して鹿児島県での就職を考える学生へのアドバイスや、目標を持つことが困難な状況を乗り越える活力となること、物事をとらえるときに点ではなく広がりのある面で考えること、先輩社員とのコミュニケーションの取り方、健康面への留意事項、金銭面での友人との付き合い方など、社会人として生きていく上での心得や注意点を多岐にわたってお話いただいた。 後半では、学生からの質問を受け付け、一つ一つに返答する形で講演を進めていただいた。企業の概要ややりがい、飛鳥電気株式会社へ就職した卒業生の動向や現在の仕事内容、関連分野で役立つ資格についてなど、就職や進学を控えた学生にとって、今後の指針への参考となる貴重な助言を得る機会となった。  	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年11月 6日（水） 13:00 ～ 17:00	
実施場所	昭光エレクトロニクス株式会社	
実施形態	③工場・現場見学	
対象学生	電気電子工学科 3年 40名（欠席者なし）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター コーディネーター 特任教授 大竹 孝明 電気電子工学科 助教 屋地 康平	所属：昭光エレクトロニクス株式会社 役職：取締役 氏名：松崎 博昭
実施内容	今回見学した本社工場は、日置市伊集院町の徳重工業団地内に位置し、LEDチップの設計・製造を行っている。学生たちは実際の作業をガラス越しに見学しながら、エピ成長～電極形成などを行う「前工程」、カット～検査を行う「後工程」の概要の説明を受けた。 見学の後に行われた質疑応答では、学生から熱心な質問が寄せられた。その中の一つに、技術開発の進め方についてどのような着眼点で進めているかに関するものがあった。これに対し、松崎氏より、将来の社会の変化や人間の生活スタイルを予測し、そのときに必要な LED 製品の設計・製造について先行投資をする旨の回答があった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年11月 6日（水） 15:10 ～ 16:30	
実施場所	東フロコーポレーション株式会社	
実施形態	③工場・現場見学	
対象学生	機械工学科 3年 44名（45名中 1名欠席）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 副センター長 准教授 吉満 真一 機械工学科 講師 白石 貴行	所属：東フロコーポレーション 役職：代表取締役 氏名： 田畑 隆一郎
実施内容	東フロコーポレーション株式会社において、会社見学を行った。実施時間は、15:10～16:30であった。また、実施内容を下記に示す。 1. 会社概要説明 2. 会社見学（質疑含む） 本見学の事前調査として、会社の概要、場所について学生が調査した。設計開発から製造まで揃った事業所であり、見応えのある見学内容であった。本見学を通じて、自らが学んでいる機械工学の専門科目がどのように社会の中で活かされているかが分かったので勉学に対する意欲が上がったという意見が出た。 見学時の質問も多く出て、想定していた終了時刻を超えるほどであった。また、地元企業に関心を持つことができたように見えた。会社に在籍している本校OBの方のお話も聞けて、学生たちもより身近な会社として認識したようだった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年11月 6日（水） 14:40 ～16:50	
実施場所	株式会社ユピテル鹿児島	
実施形態	③工場・現場見学	
対象学生	情報工学科 3年36名（38名中2名欠席）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター センター長 教授 宮田 千加良 情報工学科3年担任 准教授 新徳 健	所属：株式会社ユピテル鹿児島 役職：代表取締役 氏名：高木 紀
実施内容	    株式会社ユピテル鹿児島での企業見学を行った。 まず3班に分かれて作業現場の見学を行った。製品の製造工程やオフィスでのデスクワークの様子を見学した。稼働している機器の説明や作業工程の説明を受けた。その後、総務課の上原様より会社概要の説明があり、本校情報工学科卒の社員から現在の担当作業についての説明もあった。また、高木社長より仕事を選ぶにあたっての考え方についても話して頂き、学生も興味深く聞いていた。 マイクロ波・無線通信やGPS製品だけでなく、情報工学科にも関連する人工知能（AI）に関する製品の紹介もあった。	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年11月12日（火） 14:40分 ～ 16:00分	
実施場所	情報工学科1年教室	
実施形態	① 講義・講演	
対象学生	情報工学科 1年 42名（欠席者なし）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 副センター長 准教授 吉満 真一 一般教育科 教授 拜田 稔	所属：ソフトマックス株式会社 ・ 役職：ヘルスケアシステム開発事業部 システム開発部Ⅰ 執行役員部長 氏名：荒川 徹 ・ 役職：ヘルスケアシステム開発事業部 システム開発部Ⅰ 部長代理 氏名：井上 大輔
実施内容	荒川氏による会社概要説明の後、井上氏により、医療情報システムの概略について講義がなされた。講義中に何人かが当てられて質問されたが、みんな的確に答えていた。 講義の後、医療事故の具体例が挙げられ、そのような事故を防ぐにはどのようにしたらよいかについて、8つのグループに分かれて話し合った。10分間の話し合いの後、各グループの代表者が意見を発表した。患者や薬にバーコードをつけてミスを防ぐなど、実際の医療現場で実施されているような意見が多かった。 井上氏による丁寧な説明に感謝するとともに、情報工学科で学んでいることが実社会でどのように役立っているのかを垣間見ることができて、学生たちも喜んでいた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年11月15日（金） 15：30 ～ 18：00	
実施場所	ヤマグチ株式会社	
実施形態	③工場・現場見学	
対象学生	都市環境デザイン工学科 3年44名（欠席者なし）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 副センター長 准教授 吉満 真一 都市環境デザイン工学科 助教 横山 朋明	所属：ヤマグチ株式会社 役職：代表取締役社長 氏名： 山口 克典
実施内容	11月15日（金）、都市環境デザイン工学科3年生を対象に、「地域企業の仕事内容」、「実際の技術に触れ、日ごろの専門的学習の内容がどのように現場で用いられているか」を学ぶため、2020年度に開催される、かごしま国体「馬術競技大会」会場の整備工事の現場見学を行った。 現場では、敷地造成の工事が概ね終わり、舗装工事の施工が行われている様子を見学した。ICTを活用した工事が行われ、「人手不足改善」、「効率化」、「安全性向上」が考慮された最新の技術に触れ、学生からも力仕事のイメージとは異なっていたなど感想があり、実際の現場を見学することで、より広い知見を得ることができた。特にICT技術を導入した建設機械による作業により、熟練オペレータ同等またはそれ以上のクオリティでの作業が可能になっているとの話は印象的であった。またレーザスキャナなどの導入による現場情報の3次元データ化など、従来イメージの工事現場を覆す内容であった。データ作成に使用されるドローンの操作も体験し、実践に即した貴重な経験をすることができた。  	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年 11 月 20 日（水） 14：40 ～16：00	
実施場所	大講義室	
実施形態	① 講義・講演	
対象学生	電子制御工学科 2 年 40 名・情報工学科 2 年 40 名 計 80 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	一般教育科 講師 池田 昭大 地域共同テクノセンター 特任教授 大竹 孝明	所属：日置市 役職：総務企画部企画課政策推進係 氏名： 馬場 学
実施内容	日置市総務企画部企画課政策推進係・馬場様より、電子制御工学科 2 年生及び情報工学科 2 年生に対して、特別講義を行っていただいた。 講義の初めには日置市の紹介があり、全国的な課題となっている出生率の低下、さらに人口減少、高齢化社会となることの話をしていただいた。高齢化社会では、税収が減り、道路、水道の維持が困難になる事や、社会保障費が増える事など、様々な問題が起こりうることを説明された。 このような問題に対して、地方創生として日置市が取り組んでいる新産業、仕事の創出について説明があった。また、地方創生は企業、大学など、全員が取り組むべき課題であり、どのような点から地方創生が可能であるか考えてほしいとの話をしていただいた。 学生は熱心に講義を聴いていた。講義の最後には学生、教員からの質問もあり、丁寧に回答していただいた。  	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年12月 4日（水） 14:40 ～ 16:10	
実施場所	機械工学科1年教室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	機械工学科 1年 42名（43名中 1名欠席）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター センター長 教授 宮田 千加良 一般教育科 教授 篠原 学	所属：国分電機株式会社 役職：技術部 次長 氏名：堀内 俊郎 氏
実施内容	機械工学科の1年生に向けて、国分電機株式会社技術部次長の堀内様より特別講義を行っていただいた。 講義の前半は、国分電機株式会社の会社概要の紹介を中心に、製品の開発、製造、品質管理に関わる様々な事柄を説明していただいた。学校の授業だけでは知ることが難しい内容で、学生からも多くの質問が出されていた。 続いて、主力製品であるLED照明について、LEDの発光原理や色の種類、家庭用の照明として使用するための技術的な特徴などのお話があった。製品開発において新たに考案された技術について特許を取得することの重要性など、開発の現場ならではの貴重なコメントをいくつも聞くことができ、学生たちにとってたいへん有意義な講義であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年12月4日（水） 14:40 ～ 15:40	
実施場所	都市環境デザイン工学科2年教室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	都市環境デザイン工学科2年39名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	一般教育科 准教授 田中 智樹	- 霧島市役所 企画部企画政策課 南上 賢斗 氏 - 霧島市役所 建設部都市計画課 蓬莱 佳佑 氏
実施内容	地方創生をテーマに、霧島市役所の南上氏と蓬莱氏にパワーポイントを使いながらご講演いただいた。 南上氏からは人口減少についてお話しいただいた。人口減少の現状とその要因を具体的なデータを用いて説明され、続いて鹿児島県や霧島市の実際の取り組みについて解説された。また地元の企業の紹介もあり、通して明確であり、分かりやすく地方の役割についての講演であった。 蓬莱氏からは都市計画の観点から、現在の霧島市が行っている整備事業の具体例をお示しいただいた。公園や道路など身近な設備が、熱心な観察と調査によって安全性と利便性を追求する市職員の仕事の賜物であることがよく理解された。また本校卒業生でもあることから、夢や目標を持って過ごすことの大切さを、本校をよく知る先輩としてお話しいただいた。 質疑応答は3名の挙手があり、人口減少問題に対する霧島市の対策や、学生時代にやっておくべきこと、他県で働くことのメリット・デメリットについて質問があり、それぞれに丁寧な回答をいただいた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年12月4日（水） 14：40 ～15：40	
実施場所	大講義室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	機械工学科2年44名・電気電子工学科2年43名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	一般教育科 教授 嶋根 紀仁 一般教育科 講師 町 泰樹	・霧島市役所 企画部企画政策課 今吉 健悟 氏 ・霧島市役所 建設部建設施設管理課 福山 哲平 氏
実施内容	機械工学科および電気電子工学科の2年生87名に向けて、霧島市役所の今吉様、福山様より、COC+地方創生特別講義を行っていただいた。 講義の前半では、地方自治体が抱える問題として、人口減少を取り上げられ、その要因や社会的な背景、地方自治体に与える影響について、具体的なデータを基に説明していただいた。その上で、鹿児島県や霧島市の取り組み、霧島市の地元企業について紹介していただいた。霧島市に世界に誇れる技術・業績を有する企業があることを、学生のほとんどは知らないため、地元企業を知るよい機会となった。 講義の後半では、本校都市環境デザイン工学科の卒業生でもある福山氏より、入庁の経緯や、現在の業務内容などについて説明があり、最後に学生に向けての激励もいただいた。 学生の多くはメモをとりながら熱心に聴いており、現場の方々の具体的な講義によって、自らのキャリアプランを考えるよい機会になっていた様子であった。	
 		

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年12月 4日（水） 14:40 ～ 15:40	
実施場所	電気電子工学科1年教室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	電気電子工学科 1年 42名（欠席者なし）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 副センター長 准教授 吉満 真一 一般教育科 准教授 北菌 裕一	所属：株式会社明興テクノス 役職：技術本部技術ソリューション部部长 氏名：東 伸一 役職：業務本部総務部庶務課 課長 氏名：伊東 勝
実施内容	まず、伊東課長より、『明興テクノス』についての説明があった。どのような部門があり、それぞれの部門についての主要業務に関する説明が丁寧に行われた。その中で、有資格者についての説明もあり、様々な資格を有した職員がいることを強調された。 続いて、東部長により、絶縁不良や漏電、接地（アース）のこと等、電気電子に関する専門的な話があった。 その後、配電盤・インバータ制御に関する課題が与えられ、グループ学習が行われた。課題解決に向け、グループごと活発なディスカッションが行われた。 最後に、東部長より、基礎理解の大切さと自己啓発のためにも資格を積極的に取得することが話された。 1年生の彼らにとって、今後の目標達成へ向けたとても貴重な講話であったと思う。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年12月 5日（木） 15:00 ～ 16:00	
実施場所	株式会社九州タブチ	
実施形態	③工場・現場見学	
対象学生	電子制御工学科 3年 43名（欠席者なし）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 副センター長 准教授 吉満 真一 電子制御工学科 准教授 鎌田 清孝	所属：株式会社九州タブチ 役職：代表取締役社長 氏名：鶴ヶ野 未央
実施内容	電子制御工学科3年に向けて、株式会社九州タブチの竹内亮太様から、大手と中小企業の人事、採用、求人などについて説明を受けた。採用にあたり、その人らしいエピソードがないとその人の顔すら覚えていない。貴方らしさが重要であること。学生だから出来ることを一生懸命取り組めば良いというアドバイスを受けた。さらに九州タブチの概要、OB・OGの仕事の話、会社の大切な取り組みについてパワーポイントを用いて説明して頂いた。特に、自分の子供たちが働きたいと思える会社を目指していることに共感しているようだった。その後、生産技術や機械加工を中心に工場内を見学し、学生からの質問を答えて頂いた。 今回の見学を通じて、今後の就職活動に向けて大変有意義なものになったと感じている。  	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年12月 11日（水） 14:40～15:40	
実施場所	都市環境デザイン工学科1年教室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	都市環境デザイン工学科 1年 40名（42名中 2名欠席）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 副センター長 准教授 吉満 真一 一般教育科 教授 保坂 直之	所属：大福コンサルタント株式会社 ・役職：代表取締役副社長 氏名：福田 真也 氏 ・役職：技術第二部 副部長 氏名：前田 公樹 氏
実施内容	都市環境デザイン工学科1年生が、鹿児島市内に本社のある「大福コンサルタント株式会社」の福田 真也 様、前田 公樹 様による特別講義を受けた。特に前田様は当学科が改組する前の本校土木工学科の卒業生であり、直接の大先輩であるため、学生時代の思い出話も交えながら現場実務者としての経験を語ってもらえた。副社長の福田様からは地元の歴史ある企業がどのような組織でどのような仕事をしているのかを語ってもらった。 学生たちはまだ若い1年生で、「仕事」「専門」「工学」と言われても具体的なイメージをまだ持てない。たくさんのスライド投影やグループワークを通して、将来自分たちがどのように生きていくのかを感じ取ることができたようだ。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	令和元年12月20日（金） 12：40～13：50	
実施場所	電子制御工学科1年教室	
実施形態	①講義・講演	
対象学生	電子制御工学科 1年 36名（43名中7名欠席）	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 副センター長 准教授 吉満 真一 一般教育科 教授 白坂 繁	所属：株式会社A・R・P鹿児島事業所 ・役職：鹿児島事業所長 氏名：吉松 正和 氏 ・役職：開発グループ 氏名：矢野 征誉 氏
実施内容	先ず、吉松氏による会社の概要の説明があり、どのような製品を作っているのかの説明があった。次に本校電気科卒業生である矢野氏から、入社後の体験が語られた。 事後のアンケートによると、通信、移動関係の新製品の話には興味・関心が持てたようである。また、医療福祉関係も気になるようであった。 その後、班分けをして、ストロー20本と、接着テープで高いタワーを作るというワークショップが実施された。基本的なアイデアは、ほぼ同じであったが、テープ本体を、タワーを固定するための重りとして使うという秀逸なアイデアを出した班があり、注目された。 このような活動は学生にとっても、よい刺激になったようで、今後の学習の一助になると期待でき、良い講義であった。	
		

